

大学院音楽研究科音楽文化学専攻の中の一分野として、音楽にかかわり、かつ音楽を生み出す言語表現を研究対象とし、音と言葉の関係性について研究することを目的としています。修士課程では研究内容に合わせた指導教員の「演習」「実習」の履修を通して、テキストの読解力を高め、論文執筆スキルを向上させます。また所属する全教員と学生が参加する「総合演習」では、グループでの発表や議論を通して、それぞれの専門にあった学術発表の場において研究者として他者の論を正当に評価（あるいは批判）し、自説を明快に表出できる能力を涵養します。この他、個々の研究に必要となる知識を得るため「音楽文芸特殊研究」「原典特殊講義」といった科目に加え、他専攻や学部開設科目を履修することも可能です。2年次後期に修士論文を提出し、口述試問を合格すれば「修士（音楽）」の学位が授与されます。